

写真で振り返る 10・11月の 出来事



10/31(土)、11/1(日)文化祭

「芸術の秋」の最後を飾る喜茂別町文化祭が行われました。町民の皆さんが日ごろから制作を進めてきた作品を展示し、1年を通じて練習を重ねてきた芸能を発表する、文字通り「ハレの舞台」です。

展示は10月31日の午後から行われました。その晴れがましい舞台上に登場した作品群は、木彫、陶芸、俳句、

短歌、書、写真、生け花、絵画などに多彩です。子どもたちの書や絵画も展示されました。また、昭和の懐かしい絵本や雑誌、広報きもづの配付便りなども、会場をにぎわしています。

一方芸能発表は、11月1日の文化祭開会式に引き続いて行われました。恒例の喜茂別町文化奨励賞の表彰式も開会式に先立って行われ、留産地区の福井富子さんが長年の短歌創作活動とその成果が讃えられ、受賞されました。

芸能発表は、きもづ和太鼓クラブのダイナミックな羊蹄太鼓、ニセコ連山太鼓で幕が上がり、続いて、カラオケ、日本舞踊、民謡、詩吟などが次々と披露され、それぞれの文化の香を楽しむ豊かな時間が会場を満たして流れます。また今年は、小中学生によるダンスが初めて披露され、世代を超えた文化祭の新しいあり方を示唆する素晴らしいひと時となりました。



10/9(金)ライオンズ4クラブ合同例会が喜茂別町で開催

倶知安、ニセコ、京極、喜茂別各ライオンズクラブの合同例会が、農村環境改善センターで開催されました。奉仕の精神を広域連携で広げ深めるために、開催場所を毎年持ち回りで実施しています。開会式の後、懇親会が行われ、今後の活動に向けて互いの交流を深めました。



10/24(土)喜中祭

インフルエンザによる学校閉鎖のため、当初の予定を3週間延期して喜中祭が行われました。テーマに掲げられた「物語の扉が開く」に託された創作と表現への取組が、プログラムの随所に垣間見られる進行となりました。ビデオクリップによる開祭式は準備過程を観客と共有する効果をもたらし、よさこいソーランをはじめ英語暗礁や弁論、合唱や合奏、有志発表、生徒会の企画、学校劇が、学校生活そのままと思える自然体の物語を紡ぎだしました。



11/7(土)

鈴川小学校 学芸会



9月に1年生と4年生2名の転入生を迎え、14名で行った今年の学芸会では、鈴小を卒業した中学生や高校生もスタッフの仲間入り。地域を挙げて参加し楽しむ学芸会は健在です。低学年、中学年、そして高学年それぞれの演目の合間に演奏された和太鼓はさらにパワーアップし、新曲「鈴川太鼓」も高学年によって演奏されました。全校生徒による体操や劇、PTAによる劇、福寿会の舞踊に続いて、最後は合唱と合奏で締めくくられます。演技のスピード感と自然態が心地良い、秋の一日となりました。

10/31(土)喜小開校110周年記念学芸会

インフルエンザによる学校閉鎖のため、当初の予定を1週間延期して喜小開校110周年記念学芸会が開催されました。1年生による「はじめのことば」に続いて、学年別の劇の合間に、学年合同の合唱や合奏、ダンスが繰り広げられました。劇はそれぞれテーマや表現に個性的な工夫のあとが感じられ、躍動感のある合唱の歌声とともに、児童の生き生きとした取り組み姿勢をうかがわせました。毎年特に力を入る6年生の劇は、特攻隊として出撃する若者と周りの

人々の心の結びつきを描く感動的なドラマとなりました。



11/7(土)後志剣道連盟と江別剣道連盟の合同稽古会が喜茂別町武道館で

喜茂別町武道館において、後志剣道連盟喜茂別支部の小中学生や京極町の中学生、そして岩内等からも駆けつけた剣士たちと、江別剣道連盟16名の剣士が2時間にわたって交流稽古を行った後、道場で懇親会が催されました。現在喜茂別町内の少年少女剣士は13名。道場には一般の人も練習に来ていますが、道内ではこのようなオープンな道場は珍しいとのこと。世代と地域を越えた稽古風景は、剣道王国と言われた喜茂別にふさわしい光景と言えます。

